

今日から始めよう ペット動物の災害対策

東日本大震災の教訓を踏まえて

犬 編



一般社団法人 Shizuoka Animal Care Society
静岡県動物保護協会

災害が起きたとき・・・



災害はある日突然起ります。

その時、犬と一緒にどう避難し、避難所などでどう暮らすのかイメージしてみましょう。

1 犬を連れて避難（ペット同行避難）

小型犬はクレートやキャリーバッグに入れて、中大型犬はリードにつないでみやかに避難します。飼い主が外出中に発災した場合は、飼い主に代わって知人や近所の方が犬を保護してくれるかもしれません。



▶ペット同行避難者の受付（ペット同行避難訓練）



▶同行避難したペット（ペット同行避難訓練）



- 人と犬の安全の確保
- クレートやバッグに入る
- リードにつなぐ
- 家族で連れて避難できる頭数であること
- 飼い主不在時に発災した場合の想定

2 避難所に到着

避難所は多くの被災者が集まります。老人や子供、幼児、病気の方、アレルギーの方もいます。病院から避難してきた患者さんたちもいるかもしれません。



▶小学校の避難所〔仙台市〕¹⁾



▶避難所の様子〔青森県〕²⁾



- 多数の人と接する生活
- 人と犬の衛生の確保

3 避難所での生活

公衆衛生上の判断や病人への配慮で、人と動物の居場所を分ける「棲み分け」が行われます。犬は専用の飼養場所で、一日のほとんどをクレートやケージの中で過ごすことが多くなります。基本的には飼い主自身が犬の世話をしますが、状況によっては知人やボランティアに世話を頼まなくてはならないかもしれません。



▶自転車置場を利用した避難所のペット飼養施設
[宮城県]²⁾



▶避難所（ピッガパレットふくしま：郡山市）の
ペット収容用テント [福島県]²⁾



- クレートやケージでの生活
- 他人と接する生活
- 他の犬猫との集団生活

4 仮設住宅での生活

隣近所と密接した集合住宅での生活になります。犬は室内で飼う規則になることがあります。ペットを飼える区域では、通常より犬の飼養密度が高くなることがあります。



▶仮設住宅 [仙台市]



▶仮設住宅での室内飼養 [仙台市]²⁾



- 集合住宅
- 室内飼養
- 近隣との距離

災害に備えて どんなしつけが必要でしょうか？

1 クレート（ケージ）に慣れておく

避難の時はもちろん、避難生活中はクレート（ケージ）で過ごすことが多くなります。クレート（ケージ）に入ることを嫌がらないだけでなく、安心してくつろげる場所にしておけば、避難生活のストレスも少なくすることができます。



★クレート（ケージ）に慣れさせる方法は…6 ページ

2 人や他の動物に友好的（怖がったり攻撃的にならない）

大勢の人人が集まる避難所では、知らない人や他のペットがいつも身近にいる環境におかれます。

他人や他のペットを怖がったり、攻撃的になるのでは、周りに迷惑だけでなく、犬自身にも大きなストレスです。子犬のころからなるべく多くの人や友好的な動物に接するいい体験をさせて、社会性をつけさせましょう。

飼い主とはぐれたり、飼い主不在のときに被災した場合には、人に友好的な犬の方が保護されやすく、飼い主の元に戻る可能性も高くなります。



★人に触られることに慣れさせる方法は…8 ページ

③ 静かに落ち着いていられる(不必要に吠えたり騒がない)

飼い主の姿が見えないと鳴き続けたり、人が通るたびに吠えるようでは、避難所で受け入れられなくなってしまいます。

普段から不必要に吠えたり鳴いたり騒いだりする犬は、慣れない避難生活ではストレスでさらにひどくなることがあります。



★吠えないしつけの方法は…・9 ページ

災害に備えた
しつけって
普段から快適に
暮らすための
しつけなのね



旅行での移動や、
ペットホテルに預け
たり、通院・入院の
ときにも役立つね

もし、飼い主とはぐれて動物保護シェルターに保護されたら…

災害時の緊急保護シェルターでは、ケージでの生活となることがほとんどです。世話をスタッフやボランティアが行います。ケージに慣れていること、他の人や動物に友好的なこと、不妊去勢措置がされていることはシェルターでの生活でも大切です。



▶福島第1シェルターでの飼養の様子
(福島市飯野町) [福島県]²⁾



▶ボランティアによる犬の散歩
(福島市飯野町) [福島県]²⁾

クレート(ケージ)に慣れさせる

クレート(ケージ)を安心できる場所にして、喜んで中に入るようになるトレーニングです。

■用意するもの

・クレート又はケージ

大きさ…犬が入って方向転換できる
立ち座りができる
大きすぎない方が安心する
外が見えない方が安心する

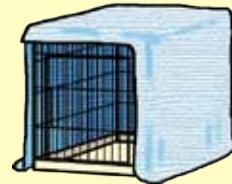


網ケージは
入口以外を
布で覆う

- ・大好きなおやつ 小指の爪ほどに小さくちぎったもの
- ・おやつやフードを詰めた噛むおもちゃ

ここがポイント

クレートやケージが既に動物病院などイヤなことに結びついてしまっている場合は、形や材質が似ていないものを用意します



■ステップ0

トレーニングを始める数日前から、犬がいともいる部屋に扉を開けた状態で置き、犬が自由に臭いを嗅いだりできるようにしておきます。

クレートのそばにいたり、臭いを嗅いでいるときに驚かせないようにします（大きな音などをたてない）。



☆犬が空腹のときにトレーニング開始！

■ステップ1

1 犬の鼻先におやつを出して、クレートの入口に誘導します



2 そのままクレートの中に誘導し、クレートの中で手に持ったおやつを食べさせます

「いいこだね」などのやさしい褒め言葉をかけましょう。



ここがポイント

ここで扉を閉めたくなりますが、まだ閉めてはいけません。一度でも「閉じ込められた」と感じたら、クレートを嫌いになってしまいます。

3 おやつで誘導して入口の方に向かせます



4 フードを詰めた噛むおもちゃを入れて クレートの中で食べさせます

ここがポイント

「クレートの中ではいいことがある（おいしいものが食べられる）」と思わせます。



☆クレートの中で安心して食べるようになったら、次のステップに進みます。

ステップ2

5 食べている間に扉を静かに閉めます

ここがポイント

大きな音で驚かせないように注意しましょう。

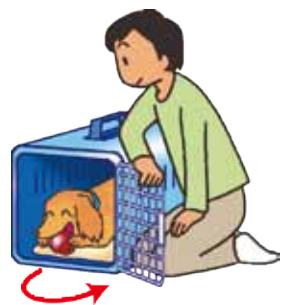


6 食べ終わる前に扉をゆっくり開けます

扉が閉まっている時間は数秒から始めます。

ここがポイント

「閉じ込められた」と感じさせないように食べ終わる前に扉を開けましょう。



7 5~6を繰り返して扉が閉まっている時間を少しづつ長くしていきます

網のケージを使用するときや気が散るときは、布をかけて外見えなくするといいでしょう。

クレートは扉を開けた状態で部屋に置いておき、中に犬の好きな敷物を入れて、くつろいだり眠ったりする「安心できる場所」にしましょう。

罰として閉じ込める場所には絶対してはいけません。



人に触られることに慣れさせる

他人の手を怖がらないようにするトレーニングです

■用意するもの

- ・大好きなおやつ 小指の爪ほどに小さくちぎったもの
- ・協力してくれる動物好きの友人、知人、地域の人



■ステップ0

子犬のうちから、なるべく多くの人に会わせて、おやつをもらったり、なでてもらうなどの「良い体験」を重ねるようにします。

☆他人を怖がるときには次のことを行います

■ステップ1

- 1 協力者に家に来てもらいます
犬と目を合わさないようにして、犬と横向きに座ります



- 2 おやつを手に持って犬が近づいて来るまで待ちます

ここがポイント

大きな声や音をたてたりこちらから近づいたりしないで、静かに待ちましょう。



- 3 犬が近づいてきたら、目を合わさずに手に載せたおやつを下からそっと犬の前に差し出します



- 4 臭いを嗅ぎに来たら食べさせます

手元まで来ない場合は、犬の前におやつをそっと投げるところから始めます

☆手からおやつを食べられるようになったら次のステップに進みましょう。

■ステップ2

- 5 犬の横で片手に載せたおやつを食べさせながら、反対側の手で胸にやさしく触れます

ここがポイント

手を嫌がるようなら触るのを止めて食べさせましょう。様子を見ながら、嫌がらない範囲でやさしく触ります。



不必要に吠えない

人には「無駄吠え」でも、犬には様々な「吠える理由」があります。なぜ吠えているのか、原因は何なのか、それによって取るべき対策やしつけの方法は変わってきます。ここでは避難生活の際に問題になりやすい吠えの原因とその普段からの対策を紹介します。

【要求吠え】

かまってほしい・散歩に行きたい・遊びたいなどの欲求で吠えることです。普段から、犬が吠えたら要求をかなえたり、関心を向けたり（叱って止めさせようとする行為も含みます）していると、「吠えれば要求が通る」「吠えれば飼い主の関心を引ける」と学習し、要求が通るまで吠え続けるようになります。

★対策

犬にとって本来満たされていなければならない要求が放置されていないか確認する	吠えている間は犬に関心を示さない。要求をかなえない	静かにしているときに褒める。要求をかなえる
<ul style="list-style-type: none"> ・適切な食べ物 ・新鮮な水 ・清潔な寝床 ・適切な温湿度 ・散歩 ・遊び ・おもちゃ ・体の痛み など		

【恐怖・不安による吠え】

見知らぬ人や物に恐怖や不安を感じて吠えたり、飼い主から離れると不安を感じて吠えることです。避難所では知らない人や物に囲まれた生活になりますから、普段から散歩に行かないなど、色々な物や人に触れる社会的経験が少ないと、常に恐怖と不安にさらされることになります。また、いつも飼い主がそばにいる生活をしていると、飼い主と離れただけで強い不安を感じるようになることがあります。

適切な社会的経験と、ひとりでも安心して過ごせるようにしておくことが大切です。

★対策

幼少時から様々な人や物といい経験をさせるようにする	犬がひとりで過ごす適切な時間を作る	外出時は犬に関心を向けずに出かける	帰宅時は犬の興奮が落ち着いてから犬に関心を向ける

クレートを安心できる場所にしておく（p6 クレート（ケージ）に慣れさせる）
他人を怖がらないようにする（p8 人に触られることに慣れさせる）なども有効です

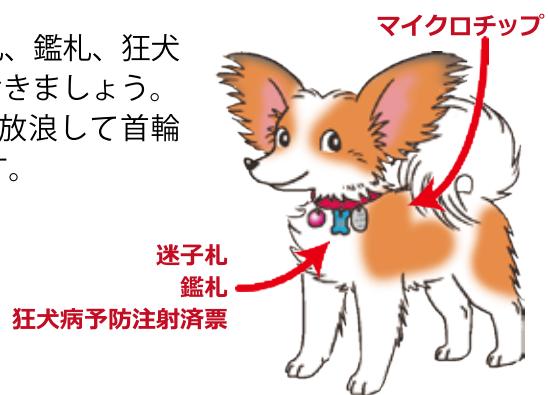
日頃からの災害への備え

① 飼い主明示とマイクロチップ

外から誰が見てもわかる飼い主明示（迷子札、鑑札、狂犬病予防注射済票）をいつも犬の首輪につけておきましょう。

さらに、マイクロチップを入れておくと、放浪して首輪が外れてしまった場合でも飼い主が分かります。

2重3重の対策をとっておきましょう。



被災地では多くの犬が行方不明になりました

▶仙台市動物管理センターに掲示された

ペットの失踪届 [仙台市]²⁾

② 犬の健康管理

避難所や動物保護シェルターなど、人や動物が集まるところでは、狂犬病予防注射、各種ワクチン、ノミ・ダニなどの寄生虫の予防と駆除をしておくことが、衛生を保つために必須です。

③ 犬の写真つきの記録手帳

ワクチン接種状況や既往症、治療中の病気や服用している薬などを手帳に記録しておきましょう。

記録には、飼い主の情報と共に、犬と一緒に写した写真、犬の特徴が分かる全身を写した写真を付けておくと、飼い主の証明や飼い主特定に役立ちます。

記録は同行避難の際に持ち出せるように、持ち出しやすいところに準備しておきましょう。

- ・飼い主の連絡先
- ・犬の情報
- ・犬の写真（特徴が分かる犬の全身写真、飼い主と写った写真）
- ・フィラリア予防の記録
- ・ワクチンの記録
- ・寄生虫予防の記録
- ・既往症
- ・服用している薬など



④ 繁殖制限措置

災害で飼い主とはぐれて放浪している間に、妊娠、出産すると、母体への負担になるだけでなく、被災地での放浪犬増加にもなります。

避難所や仮設住宅での多くの犬と一緒に生活では、不妊去勢措置をしていない犬は、ストレスを感じたり、トラブルの原因となることがあります。

動物保護シェルターでは、不妊去勢措置をしていない犬の世話はスタッフの大きな負担になります。

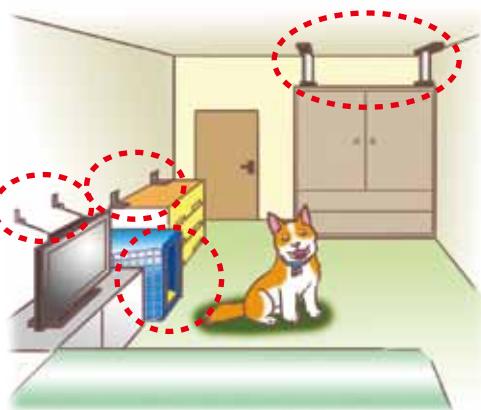
特別な理由がなければ、不妊去勢手術による繁殖制限措置を検討してください。



⑤ 自宅の防災対策

災害発生時に、人も犬も無事でいることが一番大切です。家具の固定や転倒防止、耐震強度の確認など、住まいの防災対策をとりましょう。しっかりしたクレートをいつもの休息場所として用意しておけば、地震の際に犬の室内用シェルターにもなります。

屋外の犬の居場所は、壊れやすいブロック塀やガラス窓の下は避けましょう。固定された強固な犬小屋を用意しておけば、地震の際のシェルターにもなります。



⑥ 避難場所と避難経路の事前確認

避難場所までどう行くか、所要時間や危険な物、迂回路など確認しておきましょう。避難場所を日常の散歩のルートに組み込めるようなら最適です。

⑦ ご近所や犬仲間との連携

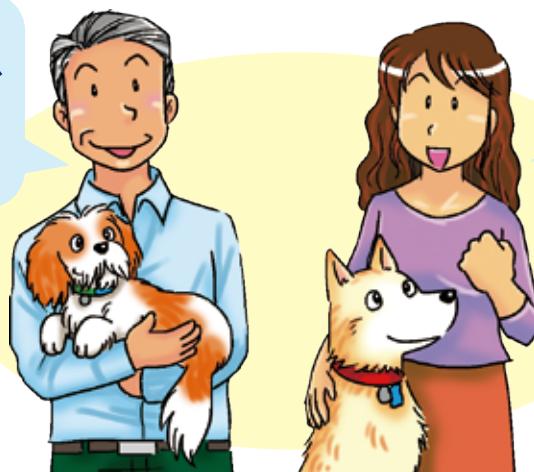
近隣に住む犬仲間と災害時の協力体制を話し合っておきましょう。避難の時や避難所での助け合いはもちろん、飼い主不在時の発災で犬の様子を見に行ってもらったり、犬の世話を一時的にお願いすることもあるかもしれません。

遠隔地に住む犬仲間とは、お互いの被災時の犬の避難場所として助け合うことを話し合っておきましょう。



飼い主明示は
迷子のとき役に立つし、
記録手帳は
普段の健康管理に
使えるね

災害への備えは
実は日常の
危機管理なのね



犬のための防災グッズ



緊急避難時に持ち出せる量は限られます。

犬の命や健康にかかる物が最優先です。

療法食や日常的な服薬が必要な場合は、非常用の備蓄について、かかりつけの獣医師と相談しておきましょう。

避難に必要なキャリーバッグやクレート

普段から犬のくつろげる場所として、扉を開けて部屋に置いておきましょう。

中大型犬は、軽量で折りたためるソフトケージを用意しておくといいでしょう。

避難のための必需品

- ・キャリーバッグ又はクレート
- ・リード



フード・飲み水の備蓄

普段食べているもので保存がきくものは日常から十分ストックし、古いものから消費していくと無駄がありません（ローリングストック法）。

フードと水は普段から道路や通路に近い屋内の場所に保管しましょう（家屋倒壊時に取り出しやすい）。

避難生活のための必需品

- ・クレート（ケージ）
- ・フード、水
- ・（療法食、薬）
- ・食器
- ・排泄物処理用具（ペットシーツなど）



非常持出品（備蓄品）

命や健康にかかる物から優先順位をつけて持ち出す準備を整えましょう

優先順位

- 高
- ・療法食、薬
 - ・フード、水（最低5日分）
 - ・予備の首輪、リード
 - ・食器
 - ・犬の写真つきの記録手帳
 - ・排泄物処理用具・ペットシーツ
- 低
- ・ブラシ・おもちゃ



発行者：一般社団法人 静岡県動物保護協会

〒420-0838 静岡市葵区相生町14番26-3号

電話 (054) 251-6036 FAX (054) 274-0002

<http://www.love-sacs.com/> E-mail: info@love-sacs.com

協力：静岡県

発行日：平成28年3月

編集・デザイン：つしまみかこ